



二星

気仙沼市立唐桑中学校

令和4年度
校長室便り

第6号 9月24日発行

運動会

関係の皆様へ感謝

保護者の皆様には、朝早くからのご来校をいただきました。
また、生徒の様子をご覧いただいただけでなく、率先して
片付けまで行っていただきました。本当にありがとうございました。



唐中生が小原木中のソーランを引き継ぎ、地域の富来旗（大漁旗）を用いて歴代の保護者の皆様がつくった法被（はっぴ）をまとって演舞する唐中ソーラン。大海に調和して生活する日本人の魂を体現するかのような雄壮な表現で始まり、その後、荒海に立ち向かう人間の力強さを思わせる俊敏な動きが表現される2部構成。驚きました。

今まで見てきたソーランよりも1.5倍から2倍の運動量があります。「これはたいへんだ！」と感じましたが、担当から、「生徒は、先輩から受け継いだ動きを減らしたり、少なくしたりしようとはしないんです。」との話を聞きました。各種目も、走るのが得意な生徒に活躍の場を提供する競技とともに、走るのが得意ではない生徒にも配慮された種目もありました。まさに「生徒の、生徒による、生徒のための、運動会」。生徒の一生懸命が輝いた行事となりました。



校長挨拶 ～夏休み明けの集会より～

夏休み前、「命を大事にしてください」という話をしました。約束を守ってくれて本当にありがとう。また、県大会、東北大会に出場した選手の皆さん、お疲れ様でした。君たちのスポーツマンシップが本当に誇らしかった。唐中生は本当に素晴らしい。そう感じた大会でした。



ところで夏休み前、「何かに挑戦しよう」という話もしました。私も、まだまだ君たちと一緒に成長したいですから、二つのことに挑戦しました。まず一つ目。一人暮らしをしている私は、「毎日朝ごはんをつくって食べよう。昼ご飯を学校に持っていこう。コンビニは使わないぞ。」二つ目は、「テニスコートの草を刈ろう。」です。

一つ目は誰にも言わずに進め、何日かはしくじりましたが、ほぼ達成できました。でもね、全然嬉しくない。二つ目のテニスコートの草刈りは、お盆前に終わりました。これは終わったあと、かなり嬉しかったです。

達成したはずの二つの挑戦ですが、終わった後の気持ちがまったく違います。なぜでしょうか？

さて、話は変わりますが、甲子園で仙台育英高校が優勝しました。私たち高校野球が好きな東北人にとっては、まさに悲願でしたから、本当に嬉しいです。そして、優勝はもちろん、試合が終わったあとの須江監督の言葉にも本当に感動しました。

仙台育英高校の話は一旦脇に置いて、同じく、この大会で活躍した近江高校の山田君の話をします。

ある番組で、甲子園を去った彼にインタビューをする場面が映りました。その中で「山田君の好きな言葉は？」という質問がありました。私はてっきり「不撓不屈（ふとうふくつ）」とか、力強いピッチングをする彼らしい言葉を予想しましたが、山田君から出た言葉は「For you（あなたのために）」。

For You

一瞬、私は戸惑いましたが、次の言葉を聞いて胸が熱くなりました。

「誰かのために野球をすると、自分が本来持っている以上の力が出るんです。」

「絆（きずな）」という言葉があります。人と人とのつながりを感じたとき、頑張れるし、続けられるし、嬉しくなる。一人だけで何かをやろうとしても、自分の力しか出せません。でも、誰かとのつながりを感じれば、そこにさらに力が湧く。やり遂げた後、その人の顔を見て、更に嬉しくなる。

思えば、私の挑戦は、ふたとおりでした。

「自分だけのための朝ごはん」と「テニス部のための草刈り」。達成感の大きさの違いは、「絆（人と人とのつながり）を感じていたかどうか」にあったのですね。

そういえば、草を刈っているとき、君たちが喜び顔を想像しながら作業していました。そして草を刈った次の日、そのコートで君たちが一生懸命に練習している姿を見て、心から嬉しかった。甲子園のヒーロー山田君と私とでは雲泥の差がありますが、「あなたのために」と考えることで私たちは頑張れるし、終わったあと、本当に気持ち良くなれるのだと、あらためて気付いた夏休みとなりました。

ところで仙台育英高の須江監督のインタビューの締めくくりは「全国の高校生に拍手をお願いします。」でした。須江監督も、自分の名誉や栄光のためではなく、全国の高校生のために言葉を発した。だから私たちは感動したのだと思います。

二学期は、様々な行事があります。勉強もしなければなりません。

もし、自分の力だけで立ち向かえないとき、くじけそうになったとき、やめてしまいたくなったとき、ぜひ、やり遂げたあとの「友達的笑顔」、「家族が嬉しそうにしている顔」、「先生が喜んでいる顔」を想像してください。「絆」を感じてください。すると、あと少し、もうちょっとだけ、頑張ることができるはずです。

君たちにとって、実り多い二学期になることを期待しています。

